校長研修だより１１０

品格

2023・6・21　重枝 一郎

先日の運営委員会で，**「採点ナビ」**の導入を検討した。まずは，希望者体験からという形をとった。手書きの文字も AI が認識するという。私は，高校時代，定期テストで解答用紙に「読めん！」と書かれて０点になった経験がある（笑）。その先生は読めなくても AI は読んでくれたかな～（笑）。

さて，そんな私が，「品格」について，“あなたが語るな！”という声が聞こえる（笑）。その通りだと思う。ただ，いつも言っているように「一人一人見えている世界が違う」という観点から批判覚悟で書く。「品がない」と思うことがあったから書く。

このことを書こうとしたとき，「女性の品格」という坂東眞理子氏の著書が話題になったのを思い出した。その本の「はじめに」のところに「女性が社会に進出し活躍することが必要だと信じていますが，それは従来の男性と異なる価値観，人間を大切にする良き女性らしさを社会や職場に持ち込んでほしいと思うからです」と書かれている。そして「女性が社会に進出しても“できる女”を目指し有能なやり手ばかり増えるのはさびしいことです」と続いて書いていた。みなさんはどう思うか？

先生方は「女学院生らしい品格」を意識しながら日々生徒と向き合っていると思う。それは細かい作法的なところ？　しゃべり方？　身だしなみ？　いろいろあると思うが，私はある授業を見て“うちの生徒は品格がない”と感じる瞬間があった。

それは，授業中，先生から指名されて発表している生徒に対し，他の生徒のほとんどがその生徒に「視線」を送っていないという光景を見たときである。**私は，「視線」を送っていない姿は「品がない」と感じる。**

よく学校では，発表者に対しての「視線」の指導をする。これは礼儀・マナーとして指導していると思う。本校のそれは，本校生の「品格」をつくる意味で重要な指導になると思う。

私も授業中，発表者が独り言のように，しかも授業者の私だけを見て発言しているときは必ず注意をしていた。「わたしではなく，みんなの方を向いて」と。そして他の生徒には，ボディーリスニング（ボディリス）をしなさいと。これは「相手の方を向く」「うなずきながら聴く」という合言葉である。

朝の礼拝でのいねむりがよく話題になる。それは本校では「品格がない」という言葉で指導するべきだと思う。だから授業中の発表の時も礼拝の時も，すべての教育活動において，人の話を聞くときは，「品格」という言葉で筋を通せる。

私を訪ねてくるお客様には，職員室を歩いてもらうという話は今までもしてきた。それは先生方のあたたかい視線とあいさつで，私がいろいろ話すより一発でこの学校良さを分かってもらえるからである。いつもありがとう。

女学院の教師・生徒の品格の本質は，どんなときでもやさしい視線やあいさつの中にある“思いやり”ではないだろうか。それが教師・生徒共に誇れることにする学校にしたい。

１学期の始業式で先生方にも生徒にも話した「Love＆Leadership」（校長講話）をもう一度読んでほしい。その中での「人たらしの要素」のところで本校の教師・生徒の姿を次のように書いている。ちなみに，本年度の学校パンフレットにもこれを書いた。

ちょっと「人たらし」を想像してみる・・・
「人たらしはいつも穏やかなので安心して話しやすい」「忙しくても手を止めてあいさつしてくれる」「冗談を言えばいつも朗らかに笑ってくれる」「押しつけがましいところがない」「どう思う？とさりげなく声をかけてくれる」「オープンな性格で接していて気持ちがいい」「心に垣根をつくらない」「弱みも見せてくれる」「失敗を笑い飛ばす快活さがある」・・・**これはいつものみなさんの姿だと思いました。**

「品格」は，姿勢・身だしなみ・言葉遣い・落ち着いた行動などが頭に浮かぶと思うが，一番大切なことは，それらの価値観の根幹には，「まわりへの気遣いを忘れない」ことがある。

再度言う。

女学院の教師・生徒の品格の本質は，どんなときでもやさしい視線やあいさつの中にある“思いやり”である。“まわりへの気遣いを忘れない”。
それを教師・生徒共に誇る学校に・・・。

このことは先生方からもクラス，授業，礼拝など様々な場面で「本校の品格」の話として周知してもらいたい。
私も「校長講話」で話す。